



10月

出東地区 行事予定



月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

◆ 敷地内禁煙にご協力ください
 コミセン建物周辺で稀にタバコの吸い殻が落ちています。健康増進法により、施設内だけでなく敷地全体が禁煙となっています。みなさまのご理解よろしくをお願いします。

◆ リサイクルステーションは、古新聞・チラシ・本・雑誌・アルミ缶・廃油・古着・段ボールを回収します。それ以外は回収できませんのでご注意ください。
(オープン 8時30分～17時)

ハーモニカサークル
グリーンリバー
.....
なにより楽しむ
ことが目的!

サークルさん
いらっしや〜い



長らく「出東ハーモニカクラブ」で活動を続けていましたが、徐々にメンバーの人数が減ったため、同じハーモニカの愛好者団体「グリーンリバー」と合流し、現在6名のメンバーで活動を行っています。
 グリーンリバーの名称は、音楽を奏でることにより心を癒し、なにより楽しむことを目的とし、「斐伊川」をイメージしてネーミングされたものです。
 ひと昔前までは庶民的な楽器だったハーモニカ。何とも言えない哀愁を奏でる音色に惹かれ、アンサンブル演奏を充実させ、皆さんにも聞いていただきたいと、月1〜2回のペースで練習しています。興味のある方、一緒にハーモニカ演奏を楽しみましょう。

10月のコミセン喫茶のご案内
 人と会って、楽しく話すこと、人とのつながりを作ること、これが一番の健康法。毎回、喫茶を楽しみに来てくださる方もたくさんいらっしゃいます。お友達や近所の方を誘ってお気軽にお越しください。お待ちしております。

◎日時 10月19日(木) 午前9時30分～11時30分
 (この時間ならいつでもOKです)
 ◎会場 出東コミュニティセンター
 ◎参加費 200円

The Voice
 ~皆さまからの声~
 8月6日、出東たなはた会に出東コミセンに行ってきました。子どもを対象とした催しでしたが、小学生の孫が粘りつき取りに行くというので同伴です。あまりの人の多さにびっくりしました。(出東では)ここ数年で一番の賑やかさだったと思います。孫はポップコーンとかき氷、私は焼きそばをいただき、太鼓・ピンコ・映画・花火と楽しんでました。手作りのお祭り感があり、出東の夏の風物詩となれば良いと思います。

●皆さんの声を募集しています!! (中洲 60代 男性)

ご寄付お礼
 皆様からお寄せいただきましたお志は、出東地区の福祉事業に活用させていただいております。

香典返し 金一封 水 善一様(黒目新田)
 香典返し 金一封 古川 篤美様(瀬西)
 ご厚志誠にありがとうございました。



10月号
2023.9

アンテナ 出東

発行/出東コミュニティセンター企画広報部 お問い合わせ/TEL 0853-62-5033 FAX 0853-62-5039

●世帯数1,268戸
 ●人口3,868人
 男性/1,897人 女性/1,971人
 令和5年7月31日現在

キラリ 出東びと

農事組合法人おきす 代表理事 森脇康博さん(70)

**農業を通して、新たな交流の場を創出
 バイオ炭の新たな取り組みも**

出雲空港近くに鮮やかに咲き誇るひまわり。飛行機の窓から、あるいは間近に目にした人も多いだろう。これは同法人の手によるもの。沖洲地区の農地76ヘクタールの広大な面積を管理する。栽培作目は主力の水稲(35ha)、二条大麦(25~30ha)、ハト麦(20~25ha)の他、稲WCS、キャベツ、寒菊、そしてひまわりと多彩。

かつては「米作り」といえば出東の名が挙がった。しかし近年では、ご多分に漏れず高齢化や後継者不足などで営農人口も減ってきた。そこで平成16年「おきす営農組合」を旗揚げし、同27年に現在の「農事組合法人おきす」に組織変えた。

組合員48名のリーダーとして精力的に活動する森脇さん。「ぜひ一緒に農業を通じてふれあいを深め、サポーターになってもらいたい」と呼びかける。声掛けに呼応するように、ひまわりの種まきやキャベツ狩りなどのイベントに、たくさんの方が参加する。

目新しい取り組みとして、バイオ炭による土づくりと二酸化炭素の削減がある。今年春から立命館大学の研究グループに参加し、水稲、ハト麦、黒大豆の計23アールで試験的に竹を原料にしたバイオ炭(350℃以上で炭化した炭)を土に投入した。

宍道湖西岸では、ほ場整備に伴い宍道湖の湖底土を利用して農地の客土を

した。結果、砂壌土のシルトで、雨が降ると軟弱になり、乾くと固くなるなど畑作には不向きな状態という。そこでリサーチの末、二酸化炭素の削減、やっかいものの竹林の再生、ひいては地球環境再生への貢献につながるバイオ炭に注目した。

「効果がどれくらいあるのか分らないが、テレビで紹介されてから反響があった。将来は畑を作り地域の底力さんなどと連携し、剪定した枝を炭にできれば...」それより今は私たちが取り組みに賛同してくださるファンが増えれば嬉しい」と前を向く森脇さん。事務所内には農水大臣をはじめとする表彰状が数多く掲げられている。



人権 コラム 人権について考えてみよう (Vol.6)

多様な性のあり方への理解を深めましょう

性的指向・性自認に関わるLGBT等の当事者は左利きの人の割合※とほぼ同じと言われています。
 「自分の周りに性的少数者はいない」と思っている人も、実際は様々な付き合いの中で、誰もが性的少数者の方々と接しているかもしれません。配慮を欠いた言動に気をつけ、全ての人が自分らしく生きることのできる地域を目指しましょう。

Lesbian レズビアン(女性同性愛者)
 Gay ゲイ(男性同性愛者)
 Bisexual バイセクシャル(両性愛者)
 Transgender トランスジェンダー(体と心の性が一致していないため身体に違和感を持ったり、心の性と一致する性別で生きたいと望む人)

※性的指向 人の恋愛・性愛の対象がどのような性別に向いているかを示す概念
 ※性自認 自分の性別をどのように認識しているかを示す概念で「心の性」ともいう
 ※左利きの人の割合は約10人に1人

6月3日 土 笹まき作りに挑戦!

自主企画事業/高齢者福祉部

出東コミュニティセンター集会所で恒例の笹まき作りが開催され、子ども8名、大人14名、22名の参加者がありました。

今回も笹巻作りのプロ、古川勝広さんに餅のこね方やしゃみせん巻などを伝授頂き、4つのグループに分かれ早速チャレンジ。

小さな子どもは餅をこね丸めることに一生懸命で、少し大きな子どもたちは、教わった簡単な巻き方を、小さな手で夢中になって取り組んでいました。大人の参加者も、古川さんの手つきを食い入るように見つめ、難しいしゃみせん巻をそれぞれに習得していました。

参加者は「来年まで覚えていられるかなあ」「帰って子どもと食べるのが楽しみです」と感想を述べていました。



7月27日 木 きくさんのなんでもアート教室

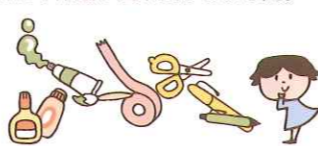
出東地区青少年育成協議会



耳栓、綿棒、緩衝材、ポンポン、サザエの殻などなど、身近にある色々な素材を組み合わせて世界に一つだけのオリジナル作品を作ろうというもので、参加した子どもたちは、悩みながらも、作り始めてみると手が止まらないほど夢中に、どんどんイメージが膨らみ、次々と個性に溢れたたくさん作品が出来上がりました。

片付け後は、たまちゃんアートファームさんからいただいた、甘いスイカに参加者みんなでかぶりつき、アート教室終了。

参加した児童のひとり「楽しかったよ」「家にあるもので何か作ってみようと思う」と目を輝かせながら感想を述べていました。



7月16日 日 いにしえの出雲に想いを馳せ 藤岡大拙氏の講演会

自主企画事業/企画広報部

郷土史家として名高い藤岡大拙氏の講演会が出東コミュニティセンターで行われ、約40人が熱心に受講しました。

今回のテーマは「神話のくに出雲」。出雲地方に数多くある神社の縁起や、古事記の舞台となった出雲、国引き神話、荒神谷で出土した銅剣のエピソードなどを披露。聴講者は藤岡氏のユーモアを交えた軽妙な語り口に、古代出雲の地に想いを馳せていました。



7月22日 土 えひめAIを作ってみよう

自主企画事業/環境部

えひめAIとは納豆・ヨーグルト・イースト菌で出来る環境浄化複合微生物のことで、水質向上や消臭、農作物の生育促進などの効果があるとされています。

事業当日の参加者9名は、解説のDVDを見た後早速えひめAI作りに挑戦。気温の高い時だったので、材料を混ぜ合わせるとすぐに発酵が始まり、参加者は一同に驚いた様子。その後、環境部スタッフからえひめAIの説明や使い方、各自が感じた効果などの話を熱心に聞き「勉強になった、早速使ってみたい」と感想を述べていました。主催した環境部の古川幸希部長は「えひめAIを使えば、さらに宍道湖がきれいになっていくはず」「出東からこの活動が広がればいい」と抱負を述べていました。



7月29日 土 先人たちから受け継いできた価値観を大切に やくも教育講演会

自主企画事業/企画広報部

万九千神社宮司の錦田剛志さんを講師に招き、神在月の国「出雲」に暮らして一と題し、やくも教育講演会を斐川文化会館で開催しました。

神在月の由来、万九千神社といえ「直会」にまつわる話、そして神在祭に奉仕する者として「時を超え私たちが大切にすべきものは何か」、先人たちが受け継いできた「誇るべき宝物」を身近な価値観の中に学んでいこうと、軽快な語り口で問いかけました。

参加した女性は「とても惹かれた話だった。神々の世界を身近に感じ、昔の人の考えや知恵を今生きている私たちの世界に活かしていきたい」と満足そうに話していました。

やくも教育講演会は2年に一度、出東と荘原の両コミセンが主催して開催するもので、今回は6回目。



7月30日 日 子どもチャレンジ企画 ペットボトルツリー たなばたver.製作

自主企画事業/子育て部、共催/出東小PTA家庭教育部



出東小親子6組と東中ボランティア3名に地域の人たちを加え総勢25名が参加し、ペットボトルでシンボルツリーづくり & 空き缶積み大会が行われました。

前半は、皆で協力しシンボルツリーづくりに挑戦。今年は、出東たなばた会で点灯式をするために、小学生の子どもたちの願いを書いたフィルムを貼り「たなばたバージョン」に仕上げました。作業ごとに分かれ

素晴らしいチームワークで素敵なツリーが完成。その後、空き缶積み大会を親子チームで行い、会場となったコミセンには歓声がこだましていました。

イベントは出東mama塾、東中のボランティア生徒の協力で行われたもので、シンボルツリーは12月末までコミセンに展示・点灯されています。



▲空き缶積み大会の参加者

8月3日 木 年齢の違う子どもたちのふれあいを 小学生保育体験

出東地区社会福祉協議会



出東小6年生の児童15名が2日間出東こども園を訪れ、園児たちと水遊びを行ったり、遊具を使った遊びを一緒に楽しむなどして保育体験を行いました。

乳幼児たちとの交流を通して、思いやりや慈しみの心を育ててもらおうと、出東地区社会福祉協議会が毎年企画。昨年、一昨年とコロナ禍で中止となり、今回は4年ぶりに実施となったもの。

保育体験に参加した一人は「小さい子が、お兄ちゃんお姉ちゃんと慕ってくれて可愛かった」また別の児童は「自分もあんなに幼い時期があったんだと改めて感じた」と感想を述べていました。お別れの会では、幼児たちのお礼の言葉と、今後も思いやりの心で学校や地域で活躍して一と記された修了証を受け取り、参加した児童たちはまた少し成長したように思われました。

報徳精神を表す橋の名前 推奨橋周辺の今昔

出東歴史散歩 Vol.6



▲昭和15年当時の「推奨橋」



▲現在の「推奨橋」

上の写真は、現在の出東三菱石油の後ろを流れる万蔵寺川に架けられた「推奨橋」から現在の県道平田・荘原線の南の方角(荘原方面)を撮影したもので、昭和15年の出東尋常高等小学校の卒業アルバムに載っていた1枚。

画面右手の三角屋根の建物は山陰合同銀行の出東出張所のもの。その隣には、中

国電力の「散宿所」も置かれ、当時は電力事情があまり良くなく職員が常駐して対応に当たっていた。山陰合同銀行の出東出張所は昭和37年8月に、中国電力の「散宿所」も44年2月頃には廃止された。

昭和10年頃から一畑の路線バスも運行し、昭和54～55年頃まで運行、買い物や通勤・通学に利用されていた。また昭和41年に坂田地区で舗装修復工事の記録が残っていることから、その数年以前には県道平田・荘原線は舗装路となったと思われる。

「推奨橋」は、県道が今の路線となった昭和10年に完成。同年に出東村が教化指定村となり、それに伴い小学校の校庭に二宮尊徳像が建立され、報徳教育が実践された。それぞれの橋の名前はこの教化指定村出東村の報徳精神に因むもので「推奨橋」もその一つとなっている。

【参考】 高瀬川=二宮橋、天神川=尊徳橋、網場川=至誠橋、京那川=無名五右衛門川=勤労橋、古新川=分度橋、万蔵寺川=推奨橋、昭和用水=報徳橋

おじゃまします 出東のお仕事拝見!

代表取締役社長 木村憲太郎さん

出東で創業し75年、今や地元業界の代表格に

社内に足を踏み入れると、心地よい木の香りが漂ってくる。キムラは昭和23年、三分市の木材製材所としてスタート。昭和60年に社名をキムラに改め、今から20年前には本社を現在地の上庄原へ移転した。

今年、創立75周年を迎える指折りの老舗企業。現在では浜田からお隣の米子周辺までを商圏に、商品の木材を届けている。取引相手は主にハウスメーカーなどの建築会社。本社の他、松江店、出雲店、ウッディハートキムラ、第一建材センター、木のギャラリー・Kimura、キムラ不動産部の店舗を持つ。社員数は52人、うち女性が14人を占める。

昨年暮れに5代目社長に就任したのが木村憲太郎さん(46)。「みんなが楽しく働ける職場を心掛けている」「昔からの製材だけでは成り立たないが、かとい

て異業種まで幅を広げる考えはない。本業一本でやりたい」ときっぱり。最近ではニーズのあるキッチンやバスまわりにも力を入れる。

新興国が高値で木材を買い占め、日本の供給量が減少したウッドショックなど業界を取り巻く環境に左右される。コロナ禍を経て今は価格面では落ち着いたが、他の資材は軒並み値上がりしており依然厳しさは続いているという。「今後、機会があれば子どもたちと木を通じた交流が出来れば」と力を込める。

INFORMATION 株式会社キムラ ●斐川町上庄原1280番地 ●TEL0853-72-8266 ●社員数52名

8月5日 土

たなばた太鼓が響く中、熱気に包まれた出東たなばた会

自主企画事業/地域づくり部・子育て部

昔は子どもたちの夏休みの一大イベントだった地区のたなばた会を、今の子どもたちにも味わってもらおうとコミセンを会場に出東たなばた会が行われました。

当日は、大人も含め幼児から中学生まで約350人が次々に訪れ、願いごとを書いた短冊を笹にくくり付けたほか、たなばた太鼓を大人と一緒に叩いて敷地内を回るなどして、たなばたムードを盛り上げました。

屋内では射的やビンゴゲーム、こわ〜いアニメ映画の上映、ガチャなどで遊び、エアコンも全く効かないほど熱気に包まれていました。屋外では、アユのつかみ取りや焼きそば、ポップコーン、かき氷、スイカの振る舞いなどの屋台のほか、神話舞隊カミアリージャーや県警のキャラクターみこびー君まで登場し、お祭りムードは最高潮に。日が暮るころにはペットボトルツリーの点灯式も行われ、キラキラ輝くツリーの下、みんなで花火を楽しみながら、フィナーレを迎えました。



企画した部員のひとり「子どもたちの笑顔と大きな笑い声に包まれると、疲れも忘れるほど。来年もぜひやろう」と、熱く語っていました。参加・協力いただいた多くの団体のみなさん、お疲れさまでした。



8月20日 日

工事関係者なども参加、宍道湖の漂着ゴミを回収

松江分自然環境倶楽部

松江分自然環境倶楽部のメンバー32人と伊藤繁満出雲市議会議員、フクダ、三洋興産の社員の計45人が参加し、十四間川(五右衛門川)と宍道湖岸の漂着ゴミの回収作業が行われました。当日午前9時、次第に暑さが厳しくなる中、火ばさみ、ごみ袋、飲料水を手に、新三分市排水機場周辺のペットボトルやプラスチックごみなどを全員で回収。その後、現在工事が進む築堤作業の概要や進捗状況について、施工するフクダ杉原係長から説明を受け、理解を深めました。

小さな子どもや高齢者の参加もある中、約1時間、熱中症など体調を崩す人もなく、無事活動を終え、主催した松江分自然環境倶楽部の役員から、最後まで一緒に参加いただいた伊藤議員や工事関係の皆様、会員の皆さんにお礼の言葉が述べられました。



8月30日 水 31日 木

中学生職場体験 チラシづくりなどコミセン業務を体験

斐川東中学校の生徒3名が、職場体験でコミセンに訪れました。

朝の館内清掃活動から始まり、チラシ作りや落語会の高座づくりなどの仕事に取り組んだ他、防災イベントの企画立案では、職員と意見を交わしながら、どうすれば多くの人に楽しんでいただけるのかについて考えました。また、消火訓練では、消火器の扱い方を学び、緊急時を想定しながら真剣な面持ちで取り組んでいました。

職場体験した生徒たちは「コミセンは、地域の人たちがつながるための大きな役割を担っていると感じた」「誰かのために働くことは社会貢献につながると思った」「日ごろできない貴重な体験をし、充実した2日間だった」と話していました。

コラム

地域のために頑張ってます!!

出雲市交通安全協会 出東支部



~交通事故や違反が1件でも少なくなるように~

運転免許証更新時に納入を案内される交通安全協会費。この会費で成り立っている交通安全協会ですが、出東支部では出来るだけ交通安全協会の会員の皆様に還元できるように取り組みを目指し、以下の重点項目を掲げ活動に取り組んでいます。

1. 交差点交通事故防止
2. 自転車も含めた飲酒運転の追放
3. 子どもの交通安全対策
4. 高齢者の交通事故防止
5. 交通安全協会会員数減少の歯止め対策



これらの重点項目の具体的活動として1.の交差点交通事故防止では、全自治会を対象とした交差点一時停止調査の実施と結果報告 2.では飲酒運転の追放を訴えるポスター製作・掲示、地区内に年賀状などによる啓発 3.では小中学校の自転車運転とルールの指導、交通事故防止の一環として独自で作成した横断ハンカチを全児童に配布し登下校で着用 4.の高齢者交通事故防止対策として、会員へ高齢者マークの無料配布や靴に貼る反射材等の装着の実践 5.広報車や文化祭時の啓発活動など、これ以外にも多岐にわたり独自の活動を数多く繰り広げています。

これら出東支部の活動実績が認められ、今まで多くの表彰を受け、令和元年度には全国表彰を受賞しました。これからも出東地区の交通事故や違反が1件でも少なくなるよう活動を推進していくことにしています。



10月23日~29日

メディアと上手に付き合うウィーク

出東地区健康づくりの会

小・中学校やこども園での取り組みにあわせ、出東地区健康づくりの会と出東地区青少年育成協議会の共催で、「メディアと上手に付き合うウィーク」を、10月23日(月)~29日(日)の1週間、地区内20ヵ所にのぼりを立て出東地区全体での啓発活動として取り組みます。

この活動では、テレビに加え、スマホやYouTubeなどネットなどが手放せない子どもたちが増えている中、日頃の生活リズムやメディアとの付き合い方を家族で確認し、規則正しい生活環境を身につけようというものです。

家族とのふれあいや、読書、学習、外遊びの時間などが増えたなど、多くの効果が期待されます。この機会に、地域全体で取り組みましょう。



いま、なぜあいさつ運動をしないといけないのか

出東子どもの安全を守る会会長 常松 耕治



出東地内の横断歩道で擦れ違った男性が「おはようございます。気を付けて行ってらっしゃい」と、子どもと男性の何気ないあいさつで、朝から温かい気持ちになりました。

何年前から、あいさつデーとして毎週水曜日に民生児童委員さんをはじめ、コミセンの専門部の方たちであいさつ運動を展開してきました。

私たちは、このあいさつ運動が地域全体に広がり、出東地区が活気あるものになるよう願っています。あいさつを交わすことは、不審者を地域に入らせないことにも結果的につながります。

子どもたちは、大人の行動を見て育つといえます。

子どもが、あいさつができないのは、子ども自身が悪くはなく、私たち大人が日頃からあいさつができていないからではないでしょうか。

大人が積極的に、家庭をはじめ地域であいさつを交わすことにより、子どもたちは家庭、地域から厚く見守られている意識を持つようになり、また家庭、地域の一員として扱われることの喜びを感じるようになってくると思います。

家庭から始まり地域全体にあいさつの輪が広がりますよう、ご協力をお願いいたします。

おはようございます!!



集いの中でたくさん笑いがありました 出東ふれあいサロン

3月 2日(土) 15日(水)

インストラクターの伊藤八恵さんを講師に笑いヨガを行いました。笑いヨガにはリラックス効果があり、ストレス解消にもなりました。会場の集會室は、元気な笑い声でいっぱいになりました。



5月 11日(土) 24日(水)

アンサンブル・ダル・セーニョさんによるバイオリン、ピアノ、チェロ、ピアノ、声楽による演奏を聴きました。演奏は「コーヒールンバ」など昔懐かしいものから、紙芝居の絵に合わせたオーケストラストーリー「となりのトトロ」など幅広くありました。「となりのトトロ」では、遊びに来てくれた出東こども園の子どもさんと一緒に演奏を楽しみました。



6月 1日(土) 28日(水)



出雲市同和教育啓発指導員の春日正信さんによる人権DVD「あなたに伝えたいこと」を観ました。涙をハンカチで拭いておられる方もおられました。

7月 6日(土) 26日(水)



森脇清美さんを講師に、大人の折り紙教室をしました。久々の折り紙に悪戦苦闘をしておられた方もおられましたが、次第に形が出来上がると夢中に。指先、頭を使ってとっても疲れました。

毎回サロンでは、健康推進員さんや佐野あつ子さんを講師に、和気あいあいと軽い体操を行っています。



みなさんも出東ふれあいサロンに参加しませんか! 詳しくは、コミセンまでお問い合わせください。